

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495300055		
法人名	株式会社ウインズ		
事業所名	ウインズの森やまとグループホーム 桜		
所在地	若林区大和町1丁目22-45		
自己評価作成日	令和 3年 10月 13日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 3年 12月 6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>介護を通じて豊かな人間性を育て地域社会に貢献すること。入居者様一人一人の思いやペースに合わせた生活を支援し、えがように介護いたします。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人が運営する「介護の複合施設」の3階にホームがあり、1階はデイサービス、2階は法人事務所となっている。新型コロナウイルスのため外出や外部との交流が難しいため、職員は室内で楽しみを増やすよう行事担当職員を中心に話し合い実行している。夏祭りはかき氷や綿あめを楽しみ、ヨーヨー釣りやスイカ割り、職員の盆踊りの披露等で入居者は大喜びだった。10月に入りコロナ感染の蔓延防止等重点措置の解除に伴い、好評だったアニマルセラピーを再開する等「入居者の笑顔があふれる毎日が過ごせるよう支援します」との基本理念を活かした支援に取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名ウインズの森やまとグループホーム)「ユニット名 桜 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念の他にグループホーム独自の理念を作成し各ユニットに掲示。毎日の申し送り時に出勤者が確認。スタッフ全員で共有している	「笑顔あふれる毎日が過ごせるよう介護します」他3項目の基本理念を基にユニット理念を作成した。年度始めに話し合っている。毎日をその人らしく、明るく楽しく生活できるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、手紙でのやり取りを行い、地域での草刈りなどは職員が参加している。	地域包括主催の「生き生きサロン」や老人クラブ、幼稚園児の来訪等地域との交流は休止している。恒例の近隣公園の草取りは職員だけ参加した。地域と連携を図り、災害時一時避難所として提供している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内で勉強会を開き認知症の理解、ケア方法の向上に努めている。運営推進会議の方々と手紙でやり取りを行い、報告、質問があれば答えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度定期的に手紙でのやり取りを行い、各分野からの情報を得てサービス向上に活かしている。	地域包括職員や町内会長、民生委員、老人クラブ、地域住民、入居者がメンバーとなっている。令和2年2月開催後は書類郵送で行っている。メンバーから、ご苦勞様とのねぎらいの言葉が多い。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町内会の方々に事業所の事情や取り組みを伝え、適切なアドバイスを受けながら協力関係を築く様にしている。	介護保険認定更新や区分変更等で相談や助言を得ている。ホーム内で転倒し骨折入院等を報告している。市の実地調査があった。職場リーダー養成研修(中級編)に参加した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルを使用し、スタッフの勉強会を行い拘束のないケアとなるようにしている。	管理者、ケアマネ、ユニットリーダーがメンバーとなり「身体拘束廃止及び高齢者虐待防止委員会」を開催している。職員は、身体拘束等の具体例など勉強を行い、その都度に感想文を提出している。転倒防止のため居室にセンサーを設置している方がいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを使用しスタッフの勉強会を行っている。ミーティングや面談を大切に、スタッフ間でのコミュニケーションも大切にストレス軽減出来る様にしている。	職員は「こっちにきて座って」や「待って」等の言葉使いは身体拘束や虐待に繋がる事を理解している。不適切な言葉や行為を見かけたらその場で注意し合い、管理者に報告する体制がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用されている入居者様が居ることもあり、研修で勉強してきた事をミーティング時、スタッフへ周知するようにしている。内部研修も実施しており理解を深める取り組みをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はスタッフ2人体制で行い、一つ一つ読み上げ、都度疑問はないか確認しながら進めている。また、改正時にも対面で説明をし理解を頂いた上で書面を残す様にしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に相談や要望を聞いている。運営推進会議に参加して頂けるよう協力を求め、意見交換する場を設けている。	電話での対応が主となっている。「好きな果物を食べさせたい」「パジャマを買って」等の声を聴き、出来ることは職員で支援している。行事の報告と顔写真を多くした「ウインズの森便り」は喜ばれている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のミーティング時には社長、顧問も参加され会社の意向などが聞けて、また、グループホーム側の意見も直接言える場がある。	職員会議やユニット会議で職員の意見や要望を聞いている。早番遅番だけの勤務や正月勤務者の報酬等を話し合っている。家電の修理、交換に対応した。管理者と職員は何でも気軽に話し合える職場である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフが働きやすい環境作りを目指している。キャリアアップ制度、資格獲得へのサポート体制がある。定期的にスタッフとの面談を実施。可能であれば、その中の意見を取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修はコロナ禍の為行えていないが、内部研修が充実しており、入社直後の新人研修、その後もテーマに沿った研修も行っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為行えていないが、外部の事業間の情報交換をメールで行っている。	同法人のデイサービスや高齢者住宅にヘルパー訪問する等、人員不足の時等に互いに協力し合い、交流を深め職員育成やサービス向上に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居初期は、利用者様はとて不安でおられる為、その気持ちを汲み取り、出来るだけ話の中から探り、焦らずに関わって行く事でお互いに理解できるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の生活を知り、利用者様の希望は勿論、ご家族様の思いや要望も取り入れながらケアにあたっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを利用するにあたり、利用者様、ご家族様と面談をし、必要としているサービスを見極め、利用者様、ご家族様の同意のうえでプランを決定している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフも含めた仲間作りを目指し、家族のような雰囲気の中で一人一人役割を持って生活していただいている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様、ご家族様の思いで作りを大切にしている。また、施設側とご家族様の相談、連絡等を密に行っている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為にできていないが、ご家族様と連携を取りながら電話や面会などを通して昔話をさせていただいている。	ユニット間のフロアの壁を取り除き、自由に行き来できるように改造した。コロナウイルス感染予防に気を付けて、家族と通院のため外出する方がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中での関わりで一人一人の個性を大切に、利用者様全員が気持ちよく過ごして頂ける様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様の悩みを聞き、解決が出来る様な糸口が見出せるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様の悩みを聞き、解決が出来る様な糸口が見出せるようにしている。	日常の何気ない会話から把握した思いや意向を、生活記録表に記載して共有している。「寿司が食べたい」の要望があり当月の行事食に取り入れる等、できるだけ要望が叶えられるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴の情報を基に、関わりのある中で、その利用者様をきちんと理解出来る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、生活記録の確認は勤務前に確認するのは当然ながら、特変のある利用者様、いつもとは違う利用者様においては必ず状態説明と対処方法を周知している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状の把握や提案も踏まえ、状態を見ながら意欲の向上、また現状が維持出来る様に努めている。申し送りをしっかりと行い、ケアの統一も図っている。状態が悪化した時はご家族様と話し合い介護計画を作成している。	担当職員がケアプラン評価チェックを行い、それを基にケアマネが3ヵ月ごとにモニタリングと計画の見直しをしている。転倒骨折し退院して来た方に、介助の変更やベッド上での体操等を計画書に入れた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録表にご本人が話した言葉、行動をありのままに記録に残している。また関わり方とその反応も記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の想いや状態や状態を把握し、ご家族様に報告、情報を交換する中らニーズに答えられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為行えず、バルコニーでの家庭菜園を行っている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を提携しており月2回の診療を受けている。体調の変化があれば随時往診、ご家族様には即時連絡をしている。	全員が月2回の訪問医を受診している。専門医の受診は家族対応で、日頃の状態を文書で伝えている。受診結果は医療連絡表に記載し周知している。歯科医の訪問があり、治療や口腔ケア指導を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は有していない。不安なことは主治医に直ぐに相談、適切な支援が受けられる様に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院が出来る様に入院中は電話で随時確認し、状態を把握できるようにしている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化についての事業所の方針を説明し承諾が得れば書面に署名、捺印を頂いている。状況に応じて、ご家族様の意向を伺い実状の説明、ご家族様の意向を伺い、GHで出来る事を改めて説明している。	入居契約時に「重度対応・終末期対応指針」を文書化し、常時医療が必要となった場合は退居となる旨を説明している。重度化した時に再度医師、家族と話し合い方針の統一を図っている。看取りの経験がある。職員の勉強会が望まれる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	いつもスタッフが不安なく冷静に対応出来る様にマニュアル、実技での練習を行っている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度避難訓練を実施している。夜間や日中を想定し避難誘導が出来る様に訓練している。また繰り返し訓練をすることで利用者様、スタッフには体で覚えて頂きたいという考えで行っている。	火災や地震を想定した訓練を行っている。火災は出火場所によって、避難経路や避難場所を変えて行っている。地域住民の協力体制ができています。地域と災害時避難場所として提供する連携がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の声を大切にし、それぞれに合ったかかわり方を心掛けている。名前を呼ぶときはサンズけで呼んでいる。	家族の了解を得て昔ながらの名前で呼びかけている。トイレ誘導の声掛けはトーンに気を付け耳元です。おむつ交換はタオルを利用する等プライバシーに配慮した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の関わりの中から入居者様が思っている事をスタッフが解ろうとする努力、また環境作りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分の意思を伝えて下さる方は少ないが、一日の中でメリハリのある様にしている。体調やバイタルサインを見極めて行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の日課として整容を促し、外出の際は普段着ではない外出着を着て頂いている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事の時はいつもと違う形で食事を提供している。盛り付けや後片付けが出来る利用者様にはして頂いている。	食事は半調理状態で業者から配達される。味付け等入居者と一緒に調理している。行事食は旬を楽しむ豪華食である。誕生日はケーキを手作りする。どら焼き等一緒に作って食べる楽しみがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に合わせて一人一人の提供方法を考えている。食べやすく、飲みやすい工夫を行い、摂取出来る様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前には必ず口腔体操を、食後には歯磨、きうがいをしていただいている。月2回は訪問歯科に往診していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の以前の習慣を大切に、時間の隙当を配慮しながら声がけをし、失禁を無くす努力を常に行っている。	排泄チェック表を基に適切な声掛けでトイレ誘導やおむつ交換をしている。動き回る方や車いすの方で手を挙げる等は、排泄サインであることを把握し一人ひとりに応じた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を目指し、水分を多く採って頂く工夫や軽体操を毎日行っている。排便パターンを見て滞りの無いようにしている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	定期的に入浴が出来る様、その方に合わせた入浴パターンで予定を立てている。拒否があった場合は時間をずらす等などの工夫を行っている。	週2回の入浴を基本としている。ゆず湯や入浴剤で気分を変え、楽しく安全な入浴を支援している。浴槽をまたぐのが困難な方はデイサービスの機械浴を利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の日々の身体状況に合わせて昼寝をしていただいている。就寝時間は一人一人の習慣やその日の疲労度によって違いその都度スタッフが誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ一人一人が利用者様の病歴を理解し服薬状態も把握している。飲み忘れ、誤訳がないよう、薬のセットはスタッフ2名で確認。服薬時は利用者様の名前、日付を確認。きちんと飲み込んだかの確認も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家庭の延長線のグループホームを目指し、洗濯物干し、食器洗い、拭きなどの役割をお願いしている。寿司が食べたいなどの要望にも答えられる様に努めている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為外出は出来ない為、テラスに出て頂いている。	天気の良い日はウッドデッキにテーブルと椅子を出して、日向ぼっこやおしゃべりを楽しんでいる。プランターにイチゴや菜の花を植え水やりをしている。2階の法人事務所横にミニコンビニがあり、お菓子等買いに行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の了承の元、お小遣い程度の金額を持っていただいている方もいる。その他は預り金として預かっている。必要時はご家族様に確認を行いやり取りを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	会社の電話にかけてこられるご家族様もあり、自由に連絡が取りあえる環境を作っている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は四季感を出した飾り付けを行い、花などを各テーブルに置き、音楽も季節に合った物を流している。	ユニット間のホールの壁を取り除いたので広がった。壁に行事時の写真が飾ってある。クリスマスツリーと、入居者と一緒に作った飾りが季節を感じる。1日2回掃除担当職員が掃除に入り清潔感が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホームでの生活ではソファを設置し、仲の良い利用者様同士で時間を過ごして頂いたり、1人で新聞を読まれたり、個々にゆっくりと過ごして頂く様にしている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、ご家族様には住み慣れた環境と同じようにとお話をさせて頂き、ご自宅で使われていた家具や家族写真、孫の作品など、ご自分の居室であることを意識して頂いている。	入口の入居者の顔写真が表札となっている。ベッドやエアコン、クローゼットが備え付けである。仏壇やマリア像が置かれ、趣味の盆栽や家族の写真を飾り居心地の良い自分の部屋である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活を目指し、利用者様には出来るだけ分かりやすい方法で、水道の出し方や居室の電気のスイッチ等が出来る様に支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495300055		
法人名	株式会社ウインズ		
事業所名	ウインズの森やまとグループホーム 秋桜		
所在地	若林区大和町1丁目22-45		
自己評価作成日	令和 3年 10月 13日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 3年 12月 6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>介護を通じて豊かな人間性を育て地域社会に貢献すること。入居者様一人一人の思いやペースに合わせた生活を支援し、えがように介護いたします。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人が運営する「介護の複合施設」の3階にホームがあり、1階はデイサービス、2階は法人事務所となっている。新型コロナウイルスのため外出や外部との交流が難しいため、職員は室内で楽しみを増やすよう行事担当職員を中心に話し合い実行している。夏祭りはかき氷や綿あめを楽しみ、ヨーヨー釣りやスイカ割り、職員の盆踊りの披露等で入居者は大喜びだった。10月に入りコロナ感染の蔓延防止等重点措置の解除に伴い、好評だったアニマルセラピーを再開する等「入居者の笑顔があふれる毎日が過ごせるよう支援します」との基本理念を活かした支援に取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名ウインズの森やまとグループホーム)「ユニット名 秋桜 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念の他にグループホーム独自の理念を作成し各ユニットに掲示。毎日の申し送り時に出勤者が確認。スタッフ全員で共有している	「笑顔あふれる毎日が過ごせるよう介護します」他3項目の基本理念を基にユニット理念を作成した。年度始めに話し合っている。毎日をその人らしく、明るく楽しく生活できるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、手紙でのやり取りを行い、地域での草刈りなどは職員が参加している。	地域包括主催の「生き生きサロン」や老人クラブ、幼稚園児の来訪等地域との交流は休止している。恒例の近隣公園の草取りは職員だけ参加した。地域と連携を図り、災害時一時避難所として提供している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内で勉強会を開き認知症の理解、ケア方法の向上に努めている。運営推進会議の方々と手紙でやり取りを行い、報告、質問があれば答えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度定期的に手紙でのやり取りを行い、各分野からの情報を得てサービス向上に活かしている。	地域包括職員や町内会長、民生委員、老人クラブ、地域住民、入居者がメンバーとなっている。令和2年2月開催後は書類郵送で行っている。メンバーから、ご苦勞様とのねぎらいの言葉が多い。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町内会の方々に事業所の事情や取り組みを伝え、適切なアドバイスを受けながら協力関係を築く様にしている。	介護保険認定更新や区分変更等で相談や助言を得ている。ホーム内で転倒し骨折入院等を報告している。市の実地調査があった。職場リーダー養成研修(中級編)に参加した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルを使用し、スタッフの勉強会を行い拘束のないケアとなるようにしている。	管理者、ケアマネ、ユニットリーダーがメンバーとなり「身体拘束廃止及び高齢者虐待防止委員会」を開催している。職員は、身体拘束等の具体例など勉強を行い、その都度に感想文を提出している。転倒防止のため居室にセンサーを設置している方がいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを使用しスタッフの勉強会を行っている。ミーティングや面談を大切に、スタッフ間でのコミュニケーションも大切にストレス軽減出来る様にしている。	職員は「こっちにきて座って」や「待って」等の言葉使いは身体拘束や虐待に繋がる事を理解している。不適切な言葉や行為を見かけたらその場で注意し合い、管理者に報告する体制がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用されている入居者様が居ることもあり、研修で勉強してきた事をミーティング時、スタッフへ周知するようにしている。内部研修も実施しており理解を深める取り組みをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はスタッフ2人体制で行い、一つ一つ読み上げ、都度疑問はないか確認しながら進めている。また、改正時にも対面で説明をし理解を頂いた上で書面を残す様にしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に相談や要望を聞いている。運営推進会議に参加して頂けるよう協力を求め、意見交換する場を設けている。	電話での対応が主となっている。「好きな果物を食べさせたい」「パジャマを買って」等の声を聴き、出来ることは職員で支援している。行事の報告と顔写真を多くした「ウインズの森便り」は喜ばれている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のミーティング時には社長、顧問も参加され会社の意向などが聞けて、また、グループホーム側の意見も直接言える場がある。	職員会議やユニット会議で職員の意見や要望を聞いている。早番遅番だけの勤務や正月勤務者の報酬等を話し合っている。家電の修理、交換に対応した。管理者と職員は何でも気軽に話し合える職場である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフが働きやすい環境作りを目指している。キャリアアップ制度、資格獲得へのサポート体制がある。定期的にスタッフとの面談を実施。可能であれば、その中の意見を取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修はコロナ禍の為行えていないが、内部研修が充実しており、入社直後の新人研修、その後もテーマに沿った研修も行っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為行えていないが、外部の事業間の情報交換をメールで行っている。	同法人のデイサービスや高齢者住宅にヘルパー訪問する等、人員不足の時等に互いに協力し合い、交流を深め職員育成やサービス向上に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居初期は、利用者様はとて不安でおられる為、その気持ちを汲み取り、出来るだけ話の中から探り、焦らずに関わって行く事でお互いに理解できるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の生活を知り、利用者様の希望は勿論、ご家族様の思いや要望も取り入れながらケアにあたっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを利用するにあたり、利用者様、ご家族様と面談をし、必要としているサービスを見極め、利用者様、ご家族様の同意のうえでプランを決定している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフも含めた仲間作りを目指し、家族のような雰囲気の中で一人一人役割を持って生活していただいている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様、ご家族様の思いで作りを大切にしている。また、施設側とご家族様の相談、連絡等を密に行っている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為にできていないが、ご家族様と連携を取りながら電話や面会などを通して昔話をさせていただいている。	ユニット間のフロアの壁を取り除き、自由に行き来できるように改造した。コロナウイルス感染予防に気を付けて、家族と通院のため外出する方がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中での関わりで一人一人の個性を大切に、利用者様全員が気持ちよく過ごして頂ける様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様の悩みを聞き、解決が出来る様な糸口が見出せるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様の悩みを聞き、解決が出来る様な糸口が見出せるようにしている。	日常の何気ない会話から把握した思いや意向を、生活記録表に記載して共有している。「寿司が食べたい」の要望があり当月の行事食に取り入れる等、できるだけ要望が叶えられるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴の情報を基に、関わりのある中で、その利用者様をきちんと理解出来る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、生活記録の確認は勤務前に確認するのは当然ながら、特変のある利用者様、いつもとは違う利用者様においては必ず状態説明と対処方法を周知している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状の把握や提案も踏まえ、状態を見ながら意欲の向上、また現状が維持出来る様に努めている。申し送りをしっかりと行い、ケアの統一も図っている。状態が悪化した時はご家族様と話し合い介護計画を作成している。	担当職員がケアプラン評価チェックを行い、それを基にケアマネが3ヵ月ごとにモニタリングと計画の見直しをしている。転倒骨折し退院して来た方に、介助の変更やベッド上での体操等を計画書に入れた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録表にご本人が話した言葉、行動をありのままに記録に残している。また関わり方とその反応も記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の想いや状態や状態を把握し、ご家族様に報告、情報を交換する中らニーズに答えられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為に、バルコニーでの家庭菜園を行っている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を提携しており月2回の診療を受けている。体調の変化があれば随時往診、ご家族様には即時連絡をしている。	全員が月2回の訪問医を受診している。専門医の受診は家族対応で、日頃の状態を文書で伝えている。受診結果は医療連絡表に記載し周知している。歯科医の訪問があり、治療や口腔ケア指導を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は有していない。不安なことは主治医に直ぐに相談、適切な支援が受けられる様に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院が出来る様に入院中は電話で随時確認し、状態を把握できるようにしている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化についての事業所の方針を説明し承諾が得れば書面に署名、捺印を頂いている。状況に応じて、ご家族様の意向を伺い実状の説明、ご家族様の意向を伺い、GHで出来る事を改めて説明している。	入居契約時に「重度対応・終末期対応指針」を文書化し、常時医療が必要となった場合は退居となる旨を説明している。重度化した時に再度医師、家族と話し合い方針の統一を図っている。看取りの経験がある。職員の勉強会が望まれる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	いつもスタッフが不安なく冷静に対応出来る様にマニュアル、実技での練習を行っている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度避難訓練を実施している。夜間や日中を想定し避難誘導が出来る様に訓練している。また繰り返し訓練をすることで利用者様、スタッフには体で覚えて頂きたいという考えで行っている。	火災や地震を想定した訓練を行っている。火災は出火場所によって、避難経路や避難場所を変えている。地域住民の協力体制ができています。地域と災害時避難場所として提供する連携がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の声を大切にし、それぞれに合ったかかわり方を心掛けている。名前を呼ぶときはサンズけで呼んでいる。	家族の了解を得て昔ながらの名前で呼びかけている。トイレ誘導の声掛けはトーンに気を付け耳元です。おむつ交換はタオルを利用する等プライバシーに配慮した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の関わりの中から入居者様が思っている事をスタッフが解ろうとする努力、また環境作りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分の意思を伝えて下さる方は少ないが、一日の中でメリハリのある様にしている。体調やバイタルサインを見極めて行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の日課として整容を促し、外出の際は普段着ではない外出着を着て頂いている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事の時はいつもと違う形で食事を提供している。盛り付けや後片付けが出来る利用者様にはして頂いている。	食事は半調理状態で業者から配達される。味付け等入居者と一緒に調理している。行事食は旬を楽しむ豪華食である。誕生日はケーキを手作りする。どら焼き等一緒に作って食べる楽しみがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に合わせて一人一人の提供方法を考えている。食べやすく、飲みやすい工夫を行い、摂取出来る様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前には必ず口腔体操を、食後には歯磨、きうがいをしていただいている。月2回は訪問歯科に往診していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の以前の習慣を大切に、時間の隙当を配慮しながら声がけをし、失禁を無くす努力を常に行っている。	排泄チェック表を基に適切な声掛けでトイレ誘導やおむつ交換をしている。動き回る方や車いすの方で手を挙げる等は、排泄サインであることを把握し一人ひとりに応じた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を目指し、水分を多く採って頂く工夫や軽体操を毎日行っている。排便パターンを見て滞りの無いようにしている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	定期的に入浴が出来る様、その方に合わせた入浴パターンで予定を立てている。拒否があった場合は時間をずらす等などの工夫を行っている。	週2回の入浴を基本としている。ゆず湯や入浴剤で気分を変え、楽しく安全な入浴を支援している。浴槽をまたぐのが困難な方はデイサービスの機械浴を利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の日々の身体状況に合わせて昼寝をしていただいている。就寝時間は一人一人の習慣やその日の疲労度によって違いその都度スタッフが誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ一人一人が利用者様の病歴を理解し服薬状態も把握している。飲み忘れ、誤訳がないよう、薬のセットはスタッフ2名で確認。服薬時は利用者様の名前、日付を確認。きちんと飲み込んだかの確認も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家庭の延長線のグループホームを目指し、洗濯物干し、食器洗い、拭きなどの役割をお願いしている。寿司が食べたいなどの要望にも答えられる様に努めている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為外出は出来ない為、テラスに出て頂いている。	天気の良い日はウッドデッキにテーブルと椅子を出して、日向ぼっこやおしゃべりを楽しんでいる。プランターにイチゴや菜の花を植え水やりをしている。2階の法人事務所横にミニコンビニがあり、お菓子等買いに行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の了承の元、お小遣い程度の金額を持っていただいている方もいる。その他は預り金として預かっている。必要時にご家族様に確認を行いやり取りを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	会社の電話にかけてこられるご家族様もあり、自由に連絡が取りあえる環境を作っている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は四季感を出した飾り付けを行い、花などを各テーブルに置き、音楽も季節に合った物を流している。	ユニット間のホールの壁を取り除いたので広がった。壁に行事時の写真が飾ってある。クリスマスツリーと、入居者と一緒に作った飾りが季節を感じる。1日2回掃除担当職員が掃除に入り清潔感が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホームでの生活ではソファを設置し、仲の良い利用者様同士で時間を過ごして頂いたり、1人で新聞を読まれたり、個々にゆっくりと過ごして頂く様にしている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、ご家族様には住み慣れた環境と同じようにとお話をさせて頂き、ご自宅で使われていた家具や家族写真、孫の作品など、ご自分の居室であることを意識して頂いている。	入口の入居者の顔写真が表札となっている。ベッドやエアコン、クローゼットが備え付けである。仏壇やマリア像が置かれ、趣味の盆栽や家族の写真を飾り居心地の良い自分の部屋である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活を目指し、利用者様には出来るだけ分かりやすい方法で、水道の出し方や居室の電気のスイッチ等が出来る様に支援している。		